



一泊長崎地域の田園風景



秋の風景(稲穂のねじりほんによ)

くりはら田舎暮らしのご紹介

宮城県の内陸北部に位置する栗原市。
岩手県と秋田県にまたがる花の新・百名山「栗駒山(標高1,626m)」を背景に、豊かな農耕文化が育まれ、おいしいお米やごちそうなどの食文化が受け継がれてきました。

栗原市にはくりはら田園鉄道や細倉鉱山など、後世に残すべき歴史的な産業遺産、正藍冷染(しょうあいひやしぞめ)、若柳地織などの伝統工芸が多く存在します。

夏は酷暑が少なく、冬は山間部(北西部)は降雪量が多いものの、平野部(南東部)では少ないなど、温暖で暮らしやすい気候です。

都会と田舎のちょうどいい距離感

市内には東北新幹線「くりこま高原駅」や高速道路のインターチェンジが2つあり、都市部へのアクセスが意外と容易なんです。

また、子育て支援制度も充実しており、移住専門誌「田舎暮らしの本」が行った『2017年版住みたい田舎ベストランキング』総合部門において、全国28位!、東北エリア第3位にランクインするほど。

(マジで? 担当が一番ビックリ!)

農業が盛んな栗原市。お米はもちろん、野菜、果物、日本酒など、自然の恩恵を受けたおいしい地場産の新鮮食材が家庭の食卓を彩ります。遠すぎず近すぎず、都会と田舎のちょうどいい距離感が魅力なのかもしれません。

自然の中に生きる ライフスタイル 古き良き暮らし・・・栗原市

▽5月14日開催された『みやぎ移住フェア』において、栗原の日常を紹介させていただきました。その概要をご覧ください。

栗原市 移住定住支援員 阿部 佐知子

▽都会にはない、田舎くらしの本当の強さとは何か?

栗原市は自然豊かなまちです。いなか暮らしの良さと強みは、人との繋がりと食文化だと思います。

右の写真は、大根を干しているところですが、この後、漬物にします。食卓に並ぶほか、お茶飲みの際にお茶受けとして出すこともあります。

その下の写真は、干し柿を作っているところです。

この柿は近所の方からおすそ分けいただいたもので、干し柿にすることで、長期保存が可能になります。もちろん、出来上がった干し柿をお礼にお返しします。

栗原市は東日本大震災で震度7を経験しました。

当時は、電気や水道が止まり、買い物もできない状況で、とても大変でした。

でも、近所同士、食べ物を持ち寄ったり、ガソリンや灯油のある家庭から分けてもらったりしながら、乗り越えて来ました。

まさに、人との繋がりと食文化が発揮された場面でした。



▽きらきら輝く子どもたち 自然としっかり向き合う生活

栗原市の基幹産業は農業です。

今の時期は、田植え真っ盛りです。ほとんどの農家は機械で植えますが、学校行事で手植えの体験をさせています。

その時は、地域の方が協力して、子どもたちにていねいに教えてくれます。

栗原のシンボルである栗駒山に、ちょうどこの時期、残雪が馬の形に浮かび上がるんです。

私たちは、これを「駒形」と呼んでいます。

この「駒形」が見えてくることで、田植えの時期を教えてくれます。

子どもたちも田植えの手伝いを頑張ります。

休憩時には、田んぼの脇に家族で座って、お昼ごはんやおやつを食べます。

こうしたことが、子どもにとっても家族にとっても良い思い出になります。

▽親から子へ、子から孫へ受け継がれる 伝統行事

右の写真は、栗駒地区で300年、受け継がれている「くりこま山車まつり」です。栗原では、この他にもたくさんの伝統行事があります。伝統行事が何百年も続くのは、それぞれの地域で親から子、子から孫へとしっかり受け継がれてきているからなのだと思います。

隣の写真は先日、娘とワラビを採りに行った時のものです。娘は、山菜を見分けられる「山菜のプロ」です。私の住んでいる地区は、栗原市でも山奥で、信号もない人口の少ない地域になります。



▽自然と向き合う環境がつくる 確かな子ども成長

娘の同級生はわずか14人しかいませんが、先生の目が届きやすく、少人数教育の良さがあります。栗原市は子育て支援が手厚く、子育てするにはとても良い環境だと言えます。

栗原の子どもたちは自然の中で育ち、活発でよく物事を考える子どもたちが多いです。それは、自然と向き合う環境があるからです。



▽あたり前の毎日が かけがえのない豊かな体験

虫などに触ること、育てること、星空を見ながら過ごせること、田舎は灯りが少ないので、星がすごく綺麗に見えます。伊豆沼から昇る太陽、沈む夕日、栗原にとっては普通の毎日ですが、それが、子どもにとっては、すべてかけがえのない豊かな体験です。当たり前だけど、大きくなってから気づく、自然の中での生活の良さが田舎にはあります。



▽ゆっくりとした時間の流れ 遠くまで広がる田園風景

私は、栗原の朝がすごく大好きなんです。それは、2度、都会暮らしをしたことがあるんですが、田舎は、時間がゆっくり流れているなど感じるんです。

電車や救急車の音は聞こえず、動物の鳴き声で目が覚めて、遠くまで広がる田園風景を眺めながら出勤をする。これは、田舎ならではの良さの一つなのかもしれません。

▽今まで見たことのない景色、むかし見たことのある景色に出会うまち

右の写真は市内にある空き家をリフォームして、実際に住んでいるお家です。栗原市では空き家バンク制度もありますので、お気軽にご相談ください。

その下の写真は、よく食べるお味噌汁です。時期もありますが、具材はほとんどが自家製になります。もちろん、お味噌も自家製です。その隣の写真は、タラの芽とコゴミとふきのとうです。この時期は、よく天ぷらなどにして食卓に並びます。

栗原市では、移住生活体験住宅が2棟ありますので、ぜひ栗原を感じにお越しください。体験住宅は4回までご利用できますので、春夏秋冬を感じるのも良いかと思います。新幹線を降りたら、すぐそこには栗原の風景が広がります。今までに見たことがない景色に出会い、むかし見たことがある景色に出会う場所、そんな栗原を一度感じてみませんか。



移住に関する総合窓口として 栗原市移住定住支援員 阿部佐知子

この4月から、新たに移住定住支援員として阿部佐知子さんが定住戦略チームに加わりました！阿部さんが加わったことにより、皆さまからの移住に関する各種お問い合わせ・ご相談に、より専門的に対応していきたいと考えています。

ふるさと回帰支援センター（東京交通会館8F）などで開催される「移住セミナー」にも参加しますので、お気軽にご相談においでください。



移相
談住

『第2回 みやぎ移住フェア』開催

日時:6月17日(土曜日) 11:30~ 15:00



栗原市 移住定住チームスタッフ

6月17日、ふるさと回帰支援センター（東京交通会館8F:有楽町）で開催される「みやぎ移住フェア」に栗原市も出展します。

より具体的な情報提供をさせていただくために!

当日おいでいただける場合は、栗原のどのような情報が知りたいか、事前にご連絡をいただければ、詳しい資料をお持ちし、より具体的なお話をさせていただきますので、電話・メールでお気軽にご要望ください。

皆さんの新たなステージでの生活が豊かなものになるように!

私たち移住定住チームの最大の目的は、田舎への移住を考えている方が思い描く、新たな生活が豊かなものになることです。

「移住」は、その後の人生の大きな決断になります。1つのきっかけだけでは決められないものだと思います。

だからこそ、そのフィールドとして「栗原」が本当に適しているのか、誠意をもって相談者の皆さんが判断できる情報や機会を提供させていただきます。

皆さんのお越しをお待ちしております!

今後の移住相談スケジュール(予定)

みやぎ移住フェア&相談会

- | | | |
|-----|-------------|-------------------------------------|
| 第3回 | 8月27日(日曜日) | *会場はすべてふるさと回帰支援センター(東京交通会館8F)で行います。 |
| 第4回 | 10月6日(金曜日) | *相談時間などの詳しい内容については、 |
| 第5回 | 11月11日(土曜日) | 確定しだい改めてお知らせします。 |

栗原市企画部 定住戦略室
Tel 0228-22-1125 E-Mail teijyusokushin@kuriharacity.jp

東北6県合同移住セミナー&相談会

開催日:7月23日(日曜日) 会場:東京交通会館12F

ふるさと回帰フェア

開催日:9月10日(日曜日) 会場:東京国際フォーラム

*相談時間などの詳しい内容については、改めてお知らせします。



【Aタイプ】



【Bタイプ】



移体
験住

一度、栗原を感じてみませんか? 「移住生活体験住宅」利用者募集!



まずは気軽に田舎暮らしを体験してもらえよう!

栗原市では、田舎暮らしや栗原市への移住を考えている方が、気軽に生活体験ができるよう、「移住生活体験住宅」を2棟ご用意しています。H28年度は、11組(19名)の方にご利用いただきました。

体験したいスタイルに合わせて、体験住宅を選べます!

Aタイプは木造平屋(3LDK)で、建物は比較的新しく眼下には花山湖が望めます。Bタイプは木造平屋(6DK)で、薪ストーブが設置された日本家屋で、これからの季節はおススメです。

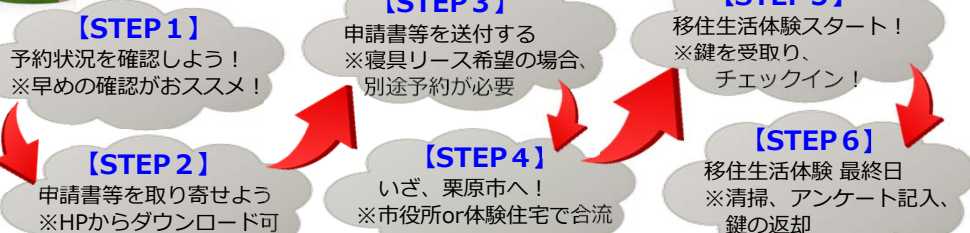
利用期間は、1回あたり連続する3~10日以内で、利用料は無料です。初めて栗原を訪れる方には、まずは2泊3日のプランをおススメします。

滞在期間中のお客様の「プラン」をサポートします!

利用申込みの際、滞在期間中、どのような方と意見交換したいか、住まい・仕事面など移住に関するどのような情報収集をしたいのか、滞在中のプランをお気軽にご相談ください。

予めご相談いただければ、資料整理や視察・意見交換などのアポイントメント、現地案内などをサポートさせていただきます。

利用の流れ



詳しくはコチラ⇒

くらしたい栗原 検索

▽営業時間 10:00~18:00 ▽定休日 火・水曜日 (祝祭日の場合翌日)
▽住所 栗原市若柳上畑岡原20-6

気軽にジャズに触れ合い、寛げるお店

移住体験に訪れた方に必ずおススメするスポットです。
お店を営む杉本夫妻は栗原への移住者です。
気軽にジャズに触れ合い、寛げる店、そんなコンセプトで、ハクチョウの飛来やハスの花で有名な景勝地伊豆沼にジャズ喫茶を経営されています。

気軽にジャズに触れ合い、寛げるお店

カフェ・コロポックルは、従来のジャズ喫茶のイメージを一新する明るい店内やデッキ席が特色。
これまでジャズ喫茶を訪れる機会がなかった方はもちろん、ゆっくりお茶や会話を楽しみたい方でも、四季折々に変化する伊豆沼の景色を堪能しながら、高音質で流れるジャズを聴くことができます。



栗原の食材を使った料理の数々…
会席料理 丸勝(まるかつ)

▽営業時間 昼11:00~13:00 夜17:00~20:00
▽定休日 不定休 ▽住所 栗原市一迫真坂字町東181-2

料理は文化 歴史が刻んだ おもてなし

昭和22年創業の「会席料理 丸勝」さん。
栗原の食材をふんだんに使った料理の数々を堪能できるイチオシのお店です。おススメの地酒もいただけますよ！

また、ランチでは各種定食のほか、女性限定のレディース膳や「くりはらジモバーガー」なども楽しめます。

お店では明るい女将さんが笑顔いっぱいでお出迎えしてくれます。
栗原の「食」についてお聞きしながら、お料理をいただくことで、味わいも深まるかもしれませんね(笑)



地情報 持続する地域づくりへ！
花山 小さな拠点づくりプロジェクト！

栗原市の西端、国有林が大半を占め、美しい自然が広がるのどかな中山間地域…それが花山地区です。
地域の人口は約1,000人。地域に若者が減り、高齢の一人暮らし世帯の増加、通院の足の確保や買い物困難者の発生など、住み慣れた地域で暮らし続けることへの不安を持つお年寄りが増えてきました。

豊かな自然と共存する中で、この地で育まれてきた文化や風土を次代の子どもたちに繋いでいきたい。そんな地域の想いが、持続する地域づくりに向けたプロジェクトというカタチに変わり、今動き出しました。

そんな花山でちょっとした移住の波が起こっています。
旧来から、花山の自然に魅せられ移住してきた方が多い地域柄。そんな風土が呼び込むのか、近年、首都圏から花山へ移住されてきている方が増えてきました。

次回号では、そんな花山地区の魅力や地域づくりの取り組み、その活動をサポートする地域おこし協力隊員の姿などを特集としてご紹介します。

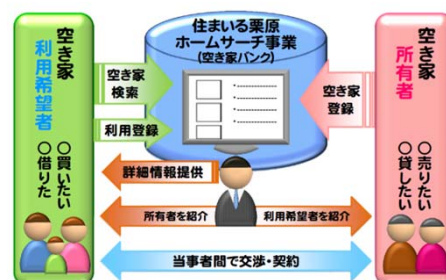


空情報 住みいる栗原 ホームサーチ事業
空き家バンク制度のご紹介！

栗原市では、空き家の有効活用を目的に、「住みいる栗原 ホームサーチ事業(空き家バンク)」を開設しています。
5月15日現在、市内に15件の物件登録があり、利用登録されている方は約80名を超えております。

利用登録されている方には、新たに物件登録がされた都度、最新の情報を提供しています。

栗原市への移住を検討されている方には、空き家バンク利用登録をおススメします！



編後記 五感で感じる
栗原のありのままの「暮らしぶり」

5月。田んぼに囲まれている我が家では、田んぼに水が張られるとカエルの大合唱です。
ちょっと肌寒い中、カエルの鳴き声を聴きながら縁側で晩酌。何も無い田舎だからこそ自然の「音」を遮るものもない。

特別、鼻が利くわけではありませんが、四季折々の自然の「匂い」も感じられる。これも遮るものが少ないからこそ。これが田舎暮らしの「贅沢」と感じる年頃になってしまいました。(敬)